

No.33号

# 社教連会報

発行 社団法人 全国社会教育委員連合 〒100 東京都千代田区霞が関3-2-3  
 国立教育会館内 Tel 03-3580-0608

## 学校週五日制と社会教育

(社)全国社会教育委員連合会長

鈴木 勲

学校週五日制が、月一回ではあるが全国の学校に導入されて、学校と家庭、地域社会の関係が、一種の緊張をはらんだ、ダイナミックな関係に変わりつつあるようにみえる。

学校週五日制は、臨時教育審議会が生涯学習社会への移行という改革の視点から行った提案の一つであり、学校が(はじめて)家庭や地域社会に投げかけた問題提起である。

これまでも、「学校、家庭、地域社会の緊密な連携」がいわれられてきて、社会教育にとっても、常に提唱された課題であるが、いわば現状を前提とした分業論にすぎなかった。

ところが、今回の問題提起は、学校教育自体がその役割の限界を明確にし、親や地域社会が本来担うべき役割はそこに返すことをねらいとしている。

子供の立場からいえば、学校の学習

や生活にもゆとりをもたせて、新しい学力―自ら考え主体的に行動する力を育てるとともに、家庭や地域社会においてもそのゆとりを生かし、子供の人間形成に大きな役割を果たしてもらおうというものである。

教育は学校だけという、学校に対する過度の依存を改め、子供の生活全体を通じて、家庭や地域社会における生活も視野において、はじめてバランスのとれた人間形成が行われるという考え方であり、いわば教育観の変革である。

まさに、社会教育の出番である。家庭教育の在り方や学校外活動の在り方について、豊かな経験の蓄積をもつ社会教育に期待されるころは大きい。

現に、家庭の反応はこれまでになく真剣であり、親たちの学校教育への理解や学校外活動への子連れの参加も積

極的であり、地域社会においても学校外活動の場の整備や情報提供などの対応も進んでおり、その背景には、社会教育関係者の積極的な支援、協力があつたことが推察される。

生涯教育と社会教育の概念については、天城前会長が指摘されるように、社会教育がこれに呑みこまれて、レゾン・デートルを失うのではなく、生涯学習は、これからの教育―学校、社会、家庭などの教育機能を果たす分野を含めて―の方向を示すマスター・コンセプトである、という説明で十分であろう。

人間らしく生きるためには、あるいは、人間性を維持するためには、生涯を通じていつまでも学び続けることである。

生涯学習社会とは、人間らしく生きることが教育・学習の目標となり、社会のすべての機構が、この目標達成に向って整序され、役割を担い、努力するような社会であろう。

学校、家庭、地域社会は、生涯学習社会を築く最も重要な、基礎的な分野である。

学校週五日制を契機に、生涯学習の場としての学校、家庭、地域社会が、生涯学習という理念の下にその在り方を見直し、ダイナミックな連携協力の関係が醸成されることは、我が国の生涯学習社会への移行を加速することになるものと思われる。

# 第35回全国社会教育研究大会をめざして

現在佐賀県においては、来る10月13日より3日間にわたり開催される第35回全国社会教育研究大会の開催をめざして、その準備に大変意欲的に取り組み、着々と進めているところです。

この大会も、昭和34年に東京で第一回が開催されて以来発展を続け、大会関係者も、全国からご参加いただく社会教育関係の皆様にも、参加してよかつたと心から喜んでいただける大会となるよう懸命な努力を続けております。

昨年千葉県において開催されました全国大会最終日には、次期開催県代表として宮原久佐賀県会長が次のような挨拶をされています。

「佐賀県は微力ではございますが、九州ブロック一丸となつての支援をいただきながら、ユニークで、意義深い大会とするように準備にとりかかったところでございます。

次年度の佐賀県大会は、10月13日～15日の3日間を開催期間と予定しております。一熱気球の里・佐賀市を中心として、大空に舞う色とりどりのバルーンで皆様方を歓迎したいと思っております。

皆様方は、すでに佐賀県についてはご案内のことと思いますが、簡単に御紹介申し上げますと近年特に話題とな

りました、本日も分科会で資料を配付

させて頂きましたが、「吉野ヶ里遺跡」を始めとしたしまして、古来より日本を代表し、広く海外へも輸出されてまいりました伊万里・有田焼きの産地でもあります。また、伝統的武士道の神髄として葉隠精神を生んだその人間形成の書「葉隠」など、特色ある歴史と文化を多く育んできた人情味ある自然環境に恵まれた土地柄でもございます。

また、開催地となります佐賀市近郊には、ゆつくりとくつろいでいただけます嬉野温泉を始めとして武雄・古湯など幾つもの温泉がある一方、つい先日国定公園として指定を受けました、「吉野ヶ里」を訪ねていただきますと「まぼろしの耶馬台国」を望める古代日本国家のルーツのロマンに浸ることができます。

現在、佐賀県では、「住みたい県日本一」を目指し、「生涯学習の総合的推進」についても、積極的に取り組んでいるところでございますので、どうか来年度の佐賀県大会では、ゆつくり佐賀県を御視察いただき、佐賀の風土に触れていただきたいと思います。」

次に、大会開催要項を要約します。

## ◆大会趣旨

全国の社会教育委員をはじめ、社会教育関係職員及び社会教育関係団体の会員等が一堂に会し、各地域における社会教育活動の状況や研究の成果を交流し合い、生涯学習の観点にたつて、社会教育の今日的な課題の解決をめざして研究協議を行う。

## ◆研究主題

「地域の特性を活かした生涯学習の在り方を考える」

## ◆期日・会場

10月13日(水)～15日(金) 3日間  
佐賀市文化会館ほか

## ◆主催

社団法人全国社会教育委員連合会  
佐賀県社会教育委員連絡協議会  
佐賀県教育委員会  
佐賀市教育委員会

## ◆後援

文部省 佐賀県 佐賀市  
財団法人全日本社会教育連合会  
佐賀県市長会・町村会  
佐賀県市町村教育委員会連合会  
佐賀県公民館連合会

## ◆大会日程

〔第一日〕開会行事13時～14時  
・主催者挨拶・表彰式典  
・祝辞 文部大臣 佐賀県知事

・歓迎のこぼば 佐賀市長  
シンポジウム14時～15時30分  
「今日から明日へ」  
「いま社会教育を考える」

〔第二日〕9時30分～15時  
部会別研究協議10部会構成

〔第三日〕9時30分～12時  
記念講演 国立那須甲子少年自然の家所長 内田忠平氏

◆部会名と研究主題 ①生涯学習推進体制と施設の活用②生涯学習時代に  
対応した、社会教育の施設の活用と  
在り方を考える③学習情報・学習相  
談④人々の学習活動を支援するため  
の情報提供・相談体制機能の在り方  
を考える⑤地域の活性化とまちづく  
り⑥地域の活性化を活かし、文化の  
創造をめざすまちづくりの方策を考  
える⑦ボランティア活動⑧人々の学  
習活動を支援する人材の育成と活用  
の在り方を考える⑨家庭教育⑩現代  
社会に対応した家庭教育の在り方  
について考える⑪地域スポーツ活動⑫  
生涯スポーツの在り方を考える⑬高  
齢者教育⑭高齢者の生きがい高める  
社会教育活動の在り方を考える⑮  
同和教育・人権教育⑯人権を尊重し、  
差別のない明るい地域づくりをめざ  
す社会教育活動を考える⑰国際交流  
⑱国際的視野に立つて、相互理解を  
深める交流活動の在り方を考える⑲  
文化財とまちづくり⑳地域の文化財  
を活かすまちづくりの方策を考える。

# 地区研究大会に参加しよう

平成5年度全国大会は前頁の通り、佐賀県におきまして着々と準備が進められていますが、いっぽう各地区（ブ

ロック）別の社会教育研究大会も、それぞれ開催県において開催にむけて、鋭意準備が進められています。

各地区大会とも年ごとに参加者が増加の傾向にあり、内容も充実してきてます。このことは開催県のきめ細かな運営・配慮等もありますが、生涯学習推進の機運が参加者の大会参加を盛り上げていると考えられます。

社会教育委員は大会に参加して、他の市町村における社会教育委員の活動を、まず知ることの意義を十分に理解する絶好の機会でもありますので、ぜひとも一人でも多くの社会教育委員のご参加をお願いいたします。

本年度の地区大会の開催県の担当者会議において発表されました各地区大会の開催要項にもとづいて、期日、会場、研究主題、分科会構成等要約します。

## 北海道地区研究大会—留寿都村

期日 9月28日（火）～29日（水）

会場 ルスツリゾート ホテル

研究主題「地域の自然に学びとともに生きる社会の創造をめざして」

—地域の自然を生かし共に学びあう

社会教育を考える—

部会の構成

第一部会 生涯教育

第二部会 青少年教育

第三部会 成人教育

第四部会 高齢者教育

第五部会 スポーツ

第六部会 文化

シンポジウム「自然とともに生きる環境を考える」

## 東北地区研究大会—山形県

期日 9月28日（火）～29日（水）

会場 上山温泉「村尾旅館」

研究主題「生涯学習の形成をめざす社会教育のあり方を考える」

分科会の構成

第一分科会 社会教育行政

第二分科会 学習情報提供

第三分科会 学校外活動

第四分科会 ボランティア活動

第五分科会 地域の活性化

パネルディスカッション「環境問題に對する社会教育の方向を探る」

## 関東甲信越静地区研究大会—神奈川県

期日 9月9日（木）～10日（金）

会場 神奈川県民ホール

研究主題「豊かな地域社会の創造と生

涯学習」

—今、社会教育委員はどうあるべきか—

分科会の構成

第一分科会 地域社会における生涯学習推進体制のあり方

第二分科会 人権の尊重と同和教育の推進

第三分科会 国際化の推進と生涯学習

第四分科会 地域文化の創造とまちづくり

第五分科会 青少年が健やかに育つための環境づくり

第六分科会 地域にねざした男女共同社会の創造

パネルディスカッション「芸術・文化のより身近な日常化に向けて」

## 東海北陸地区研究大会—愛知県

期日 10月28日（木）～29（金）

会場 愛知県豊橋勤労福祉会館

研究主題「生涯学習時代の課題に対する社会教育のあり方を考える」

分科会の構成

第一分科会 生涯学習

第二分科会 成人教育

第三分科会 青少年の教育

第四分科会 家庭教育

第五分科会 人権教育

第六分科会 生涯スポーツ

講演「歴史的人物の医療よもやまばなし」（仮題）

## 近畿地区研究大会—滋賀県

期日 7月15日（木）～16日（金）

会場 大津市市民会館

研究主題「生涯学習社会の実現に向けた社会教育のあり方を考える」

分科会の構成

第一分科会 生涯学習推進体制整備

第二分科会 ボランティア活動促進

第三分科会 生涯学習まちづくりの推進

第四分科会 家庭・地域の教育力の活性化

第五分科会 高齢社会への対応

第六分科会 地域ぐるみの同和教育の推進

講演「生涯学習時代の社会教育」

## 中国・四国地区研究大会—愛媛県

期日 7月20日（火）～21日（水）

会場 愛媛県民文化会館

研究主題「生涯学習社会の実現をめざした社会教育のあり方を考える」

分科会の構成

第一分科会 青少年の自立を促す学校外活動のあり方

第二分科会 生涯学習社会における学習活動のあり方

第三分科会 豊かなスポーツライフと健康増進のあり方

第四分科会 差別のない明るい社会の実現をめざす活動のあり方

記念講演「龍馬になれ！」

# 北から南から

## 協議会の歩みと課題

宮越道晃

私田県に社会教育委員連絡協議会が誕生したのは、昭和四十六年ですが、その年は県の総合開発計画の中に「生涯教育の推進」が位置づけられ、教育行政、一般行政が一体となってその推進に取り組み始めた年でもあります。

当時は生涯教育という言葉そのものがまだ耳新しい時代でしたが、その新しい理念に基づいた教育的風土をつくるための社会教育の役割り、ひいては社会教育委員の役割りの重要さが叫ばれ、その新しい風を背に受けながらの会の発足でした。その頃はまだ社会教育委員の未設置市町村も多く、理事の方々が手弁当で設置の必要性を訴えて回ったものです。その結果、昭和五十五年になって県内の全市町村の設置と加入が達成されたのです。

その組織の強化と並行して進められた重点事項は、市町村社会教育行政計画の策定ということでした。そのためにはまず社会教育委員の役割りを確認しようということ、会の事業としては、会報の発行や委員の研修、委員の実態、社会教育計画策定状況の調査活動などに取り組んでまいりました。そ

れと、秋田県の特徴的な事業としては、市町村の社会教育主事さん方の組織である「社会教育主事連絡協議会」との共催で、その時々の課題をテーマに「社会教育振興セミナー」を毎年開催していることが挙げられると思います。

これまでの先輩諸氏のこのような努力によって組織の強化と活動の充実は図られてまいりましたが、結成二十年を過ぎたいま、新たな課題に直面していることも事実です。例えば、研究会などで出される問題としては、県内の市町村でも社会教育課を生涯学習課に名称を変更するところも出ています。その場合に社会教育委員というのはどうなっていくのか。かつて盛んに議論された生涯教育と社会教育の関係を、もう一度新たな観点から整理をする必要があります。

また、最近どの地域でも、地域おこしの活動が盛んですが、その中で社会教育がどんな役割りを担ってゆくのなども課題の一つです。かつては社会教育の大きな部分を占めていた青年の学習活動についても新たな対応が急務です。本県のように人口の減少と高齢化が進む中で、もう一度、地域づくり、人づくりの原点に立ち返ってみるのが大切なように思われます。社会教育のアイデンティティというものの問い直しです。

(秋田県社会教育委員連絡協議会長)

## 生涯教育(学習)と私

小林力三

私は約七十年前の我が国の生涯学習の先駆者としての早稲田大学の講義録から大きな恩恵を受けています。大正末年に私は旧制高等学校に入学しましたが不幸にも肺結核に罹り中途退学して療養生活に入りました。漸く治癒して家業を継ぎましたが、友人が大学で勉強している姿を見て羨望に堪えませんでした。

それで早稲田大学の政治経済・法律・文学の三講義録のほか一ツ橋発行の東京高等商業講義録や更に東大在学中の友人に頼んで有名教授の講義のプリントまで入手して一生懸命の勉強をしました。

これらの講義録は内容として立派なものでしたが通信教育としてはレポーター・添削指導更にはスクーリング等が不十分で残念でしたが、私は学力では大学へ行っている友人に一步もヒケを取らぬ自信を得ることができました。ところで其の経験を社会に生かす機会がありました。

私は終戦直後県の教育委員長に選任せられ又新潟県の連合青年団長に就任して此れからの日本を背負う青年の教育を思い立ち創立早々の新潟大学の学長と相談して、当時文部省も手をつけ始めた通信教育を先取りして、新潟大

学の通信教育部の仕事として当時二十万人の青年団員に呼びかけて青年教養講座・青年文化講座等を発刊して一人以上の団員の参加がありそして大いに感謝されました。

其の後文部省としては通信制高等学校教育を確立せられ、又民間私立大学も競って専門の通信教育を実施し、更に民間団体による文化・教育講座が数十種類も生れて大いに利用され、又市町村も斯かる施策を助けるために立派な市民館、文化会館等の施設を建設して生涯学習の花が燎爛と咲き始めている姿は嬉しくてなりません。

併し誰でもどこでも望むものを学習できる態勢ができてつありますが、折角先人が一生懸命に築きあげてくれたものを充分活用せねばなりません。

ところで私が心配なことは現在の日本人特に若い人達に敗戦によって焦土と化した日本を世界有数の経済大国として立ち上らせたエネルギーや意気込みが退化してのように感ぜられ残念です。

今こそ五十年前に我が国民が持ったエネルギーを再發揮して今度は文化大国を築きあげて貰いたいものです。私も余生をあげて頑張るつもりです。

(新潟県社会教育委員連絡協議会長)

### 「日本文化の源流を探る」訪韓団

高田 良雄

山口県は本州の西端にあり、古くから大陸との関わりが深いことは周知のとおりである。とりわけ、韓国と我が国は、歴史的にも地理的にも身近な関係にある。日本の文化はその殆どが中国から朝鮮半島を経て流入していると言っても過言ではないであろう。

山口県社会教育委員連絡協議会では四年前の平成元年から、そんな韓国を是非この目で確かめ「日本文化の源流を探りたい」という会員の強い要望のもとに訪韓団を結成し、毎年四十名を定員に募集し実施している。今回は五回目を迎え、十月上旬に実施予定である。

特に、韓国慶尚南道は昭和六十二年に山口県と姉妹提携を結んでおり、会員の関心も高いところである。

毎年、参加者から感動の感想が寄せられているがその一節を紹介しよう。

光市、H氏……中略 次に嬉しかったことは扶余と慶州において百済と新羅の史跡と出土品に接し、正倉院御物や藤の木古墳出土品との共通点が多く、日本文化の源流をはっきりと文物を通してこの目で見届けたことである。……中略 私は帰国後再度の訪韓を計画しているが、この社会教育委員

訪韓研修に一人でも多くの方が参加さ

れるよう勤めてあげたい。……後略。

萩市、H氏 韓国は四千年にわたる歴史をもった国であり、日本の二千六百年に比べればはるかに長い歴史がある。この歴史を通じて、韓民族は強大

な統一国家を打ち立て、華やかな文化の花咲かせた一時代もあり、また、国力が衰え外勢に踏みじられた試練の時期もあつた。この間国家の興亡盛衰を経ながら、国土と国民の特性を保ちつつ外来の文化を摂取して、独自の文化を発展させてきている。こうした韓国の歴史の経緯を念頭に視察と研修に心がけた。……後略。

徳山市、Y氏……中略 我が国も完全実施に移される新教育課程を前に今やアジアにおいて頭角を現しつつある韓国の歴史・文化・自然・教育などに直接触れ、多くの人達と交流できたことは教育に携わる者にとってこの上ない収穫であつた。……後略

以上、感想文のごく一部を紹介したわけであるが、参加された皆さん方の感想から「日本文化の源流を探る」という所期の目的を達成していただけたことが伺え、大変嬉しく思う。

本年度もまた新しい参加者が新たな感動を呼び起こされるであろうことを期待している。そして、この訪韓団が我が国と韓国との友好善隣の一助となればこの上ない喜びである。

(山口県社会教育委員連絡協議会長)

### 社会教育委員と生涯学習

木村 豊文

私は、昭和五十六年に大口市社会教育委員、大口市公民館運営審議会委員に任命されて以来、委員会の議長として本市の社会教育に関わる機会を与えられるとともに、昭和五十七年からは県の社会教育委員連絡協議会理事、さらに昨年からは県協議会副会長に選任され現在に至っております。

その間社会教育行政への提言という社会教育委員の基本的な職務に努めながら、生涯学習モデル市町村事業の指定をうけたのを機に、本市の生涯学習体系の整備についても委員の意見の反映に努めています。そこで社会教育委員として生涯学習に対する認識と取り組みの現状をのべてみたいと思います。

自ら進んで学ぶことの楽しさを知り、学ぶことをとおして人間としての成長と喜びを多くの人々と共に分かち合つていったとき、初めて生涯学習への道が開かれるのではないのでしょうか。

生涯学習は、強制によらず、自らの内面的欲求に根ざします。また、学校教育や家庭教育さらに企業内教育、文化・スポーツ活動などの全ての学習活動が人生をつくっていくという大きな目標で展開されるものと考えます。

今日の社会では人間が人間としていきいきと生き、それぞれの人生を全う

するためには、生涯にわたって学習する必要があります。

一人ひとりが、学習によって生涯各期の発達課題を達成し、日進月歩の社会の変化に対応し、次々と生起する諸問題を解決していく能力を身につけるとともに、豊かな社会性を培うことがますます大切となりましょう。

そこで、学校教育においてはもとより、一般人の学習意欲を高める行政面での企画、指導の在り方が問われるところでは、即ち生涯学習の振興方策が求められています。具体的には、①学級講座等の集団学習と図書館・歴史館等を活用した個人学習などの学習形態の工夫。②学習したことの実践化、社会化。③学習環境の醸成。④学習プログラムの創意工夫など多くの課題があります。

市民の学習ニーズを把握して、これらの課題を念頭に幅広い行事や活動の企画立案が行政や関係指導者等の仕事であり、運営はそれぞれの学習集団・実践集団の自発性、自主性、創造性にまっことが大切でしょう。本市では、四十一名からなる生涯学習推進会議のもと、生涯学習のまちづくり基本方針や主要行事等が策定され、具体的な一歩を踏みだしたところです。

今日、私たちは生きがいのある人生と時代を創造するため、生涯学習についての認識を深め、社会教育委員としての役割を果たしていきたいものです。

(鹿児島県社会教育委員連絡協議会副会長)

# 重ねて寄付金の募集にご理解を

本会の事業推進につきましていろいろのご協力とご支援を賜りまことに有難うございます。

既に都道府県・指定都市の社会教育委員連絡協議会会長を通して文書等でまた「募金趣意書」を配布する等「基本金募集について」重ねてお願い申し上げますが、ご理解とご協力がえられ、平成5年度第一回総会におきまして「基本金増強計画募集状況」の説明を行いましたがお蔭様をもちまして左記の通りとなっております。

なお、現在未報告の県都市におかれましても「募金趣意書」等基本金募集

についてご理解を深めいただき、ここに重ねてご協力をお願い申し上げます。次に募金の概要を記載します。

一、募金額 六、三〇〇万円  
当法人の基本金を最低一億円とする。なお現在までの募金額の総額は、三、七〇〇万円である。

一、募金期間 平成四年度、平成五年度の2カ年とする。

一、募金対象 都道府県・指定都市の社会教育委員連絡協議会に平成四年度、および五年度の在任中の社会教育委員に対し、任期中一回限り寄付をお願いする。

## 【基本金増強計画募金状況】

### 1. 募金申込状況 (平成5年2月12日現在)

4年度	5年度	合計
5,766,920円	31,750,900円	37,517,820円(59.6%)

[未報告県 14県、4指定都市]

### 2. 既収入額及び申込状況(平成5年5月21日現在)

既収入額	5年度申込額	合計
5,308,720円	39,410,300円	44,719,020円
(8.4%)	(62.5%)	(71%)

[未報告県 11県、4指定都市 目標額 11,199,200円]

### 3. 既申込額 + 未報告県都市分目標額

44,719,020円	+	11,199,200円	+	55,918,220円
(88.76%)				

(備考)%は募金目標総額 6,300万円対比

# 募金趣意書

本会は昭和三十八年五月に全国社会教育委員連絡協議会として発足し、二十年後の昭和五十八年九月に文部大臣より社団法人の設立を許可され、以来、全国三万八千名の社会教育委員の連絡を密にし、相互の向上につとめ、わが国の社会教育の振興に努力してまいりました。

なお、法人設立に当たり、昭和五十一年に、本会の財政基盤を強固にして活動をより活発にするために、社会教育委員自らの寄付による基本金を積立て、その利子収入をもって活動経費の一部を補うことと定め、寄付金の募集を開始いたしました。以来十五年、平成四年三月末現在、この基本金は三千六百八十八万円に達しました。

しかるに、法人設立当時と現在とでは金利の低下、人件費、物価の上昇等に加えて、国の補助金も年毎に減額が続き、全国大会の運営にも支障をきたす状態にあります。国に自立を促されるまでもなく、自主的団体としての活動を続け、さらに社会教育委員の地位向上を図るためには、基本金を一億円へと増強し、本会の財政基盤を強化する必要があると、平成四年五月の総会においてご決定いただきました。

基本金一億円への目標達成のためには、新たに六千三百万円を募金目標額とし、平成四年度および五年度の二年間にわたり、任期中一回限りの募金を再度全国の社会教育委員の皆様方にお願ひすることとなりました。増額された基本金による収入は、全国および地区社会教育研究大会の経費の増額、会報の充実、社会教育委員活動状況調査などの実施により、会員の資質および地位向上のための事業充実を図る所存であります。社会教育委員の皆様方のご賛同とご協力を心からお願ひ申し上げます。

平成四年七月

社団法人 全国社会教育委員連合

会長 天城 勲

## 第19回ヨーロッパ社会教育視察団参加者募集

本会は昭和50年度より毎年社会教育委員、教育委員、社会教育行政職員、社会教育団体会員等のためにヨーロッパ諸国の社会教育事情の視察団を編成し、実施してまいりました。本年は現地の気候等を考慮し10月出発とし、旅行経費も低く設定しておりますので、この趣旨にご賛同の方のご参加をおすすめいたします。

1. 目的 ヨーロッパ各地の社会教育施設を見学して、その活動状況を視察する。さらに各国の著名なる建造物、史跡等を巡り歴史を学ぶ。
2. 期間 平成5年10月28日(木)～11月8日(月) (12日間)
3. 日程 東京→ロンドン(3泊)→ローマ(3泊)→モンペリエ(2泊)→パリ(2泊)
4. 主要視察先 ①ロンドン＝ミルトンキーンズコミュニティセンター、英国暁星国際学園  
ロンドン塔、バッキンガム宮殿、セントポール寺院、大英博物館 等  
②ローマ＝文部省成人教育局(生涯教育センター)  
フォロロマーノ、コロッセツ、バチカン市国(サンピエトロ寺院)、スペイン広場 等  
③モンペリエ＝ラングドックルシオン地方開発局  
④パリ＝ルーブル博物館、ノートルダム寺院、凱施門、エッフェル塔 等
5. 経費 488,000円(全朝食付、ベテラン添乗員が全行程御案内致します。)  
社会教育委員の方には、本会から20,000円の助成金があります。
6. 募集人員 20(定員になり次第締め切ります) 〆切 10月1日(金)
7. 応募方法 はがきで全国社会教育委員連合へお申込み願います。なお詳細なことを知りたい方は、ご連絡下さい。詳細資料を委員宛お送り致します。
8. 旅行業務 旅行に関する一切の業務に近畿日本ツーリスト(株)虎の門海外旅行支店が担当します。
9. 連絡申込先 〒100 東京都千代田区霞ヶ関3-2-3 国立教育会館内

(社)全国社会教育委員連合 TEL(03)3580-0608

## ＝東南アジア社会教育視察・交流団のご案内＝

本会は昭和50年度より毎年欧州社会教育事情視察団を編成しわが国の社会教育推進に努力して参りましたが、本年は別途にタイ・シンガポールへの「東南アジア社会教育視察団」を編成して現地の事情を視察交流することにより、わが国だけでなくアセアンの一員として広く社会教育の推進の一助にと考えております。是非この機会にご参加をおすすめいたします。

1. 期間 平成5年12月5日(日)～12月11日(土) 7日間
2. 日程 東京→シンガポール(3泊)→バンコック(2泊)→東京
3. 主要視察先 ①シンガポール＝シンガポール生涯学習協会、社会教育施設見学、市内視察等  
②バンコック＝タイ社会教育協会、社会教育施設見学、市内視察等
4. 経費 198,000円(全朝食付、ベテラン添乗員が全行程ご案内いたします。)
5. 募集人員 15名 〆切 11月12日(金)
6. 応募方法 はがきで全国社会教育委員連合へお申込み願います。なお詳細なことを知りたい方はご連絡下さい。詳細資料を委員宛お送りいたします。
7. 旅行業務 旅行に関する一切の業務に近畿ツーリスト(株)虎の門海外旅行支店が担当します。
8. 連絡申込先 〒100 東京都千代田区霞ヶ関3-2-3 国立教育会館内

(社)全国社会教育委員連合 TEL(03)3580-0608

# 事務局だより

## ▼平成5年度第一回総会終わる

平成5年度第一回総会・理事会が次の通り開催されて、決算、事業、予算等がそれぞれ承認、可決されました。

日時 平成5年6月3日(木)

理事会 10時30分～12時

総会 13時30分～15時30分

会場 東京文化会館 大会議室

総会は正会員数60名中出席者33名、委任状による出席者27名で計60名。

定刻に司会者より開会を宣し、天城会長の挨拶、小杉山専務理事より経過報告を行い、次に、議長に鎌水速太氏を選出し、議事録署名人として落合勝雄氏と小林力三氏が指名され議事の審議に入った。

### 議事の審議の経過

第一号議案 平成4年度事業決算報告について 原案どおり承認、可決。

第二号議案 平成4年度監査報告について 原案どおり承認、可決。

第三号議案 平成5年度事業計画・予算案について 原案どおり承認可決

東京都市町村藤橋多一郎会長より、全国表彰者の増員について、表彰規程施行細則第3条について表彰規程の改正が出来ないものか、意見がだされ「再検討委員会」等設け、第二回総会で検討することで小杉山専務理事より提案がありました承。

第四号議案 35回全国大会開催要項案

について詳細に説明があり、承認。第五号議案 36回全国大会は岩手県で開催する旨発表があり 承認。

第六号議案 寄付金について 小杉山専務理事より、5月21日現在の「基本増強計画募金状況」の説明があり 承認。

第七号議案 役員改選について 左のとおり(敬称略)

会長 鈴木 勲 東京都

副会長 宮原 久 佐賀県

副会長 水本光夫 岩手県

専務理事 小杉山清 北海道

理事 新谷淳治 北海道

理事 佐藤信一 山形県

理事 金子安平 群馬県

理事 湯上二郎 神奈川県

理事 奥田栄助 富山県

理事 市川光雄 愛知県

理事 住岡英毅 滋賀県

理事 舟坂 勝 兵庫県

理事 井戸内正 島根県

理事 松谷照男 愛媛県

理事 竹下 哲 長崎県

理事 古谷武雄 神戸市

理事 秋山一夫 栃木県

理事 片居木清一 埼玉県

監事 片居木清一 埼玉県

第八号議案 顧問の推挙について

小杉山専務理事より「退任される天城会長を顧問として推挙したい」旨の説明があり、全員異議なく承認。

## ▼県の社教連会長に就任(敬称略)

宮城県 江馬成也・千葉県 高柳正平  
福井県 松宮 守・山梨県 中田 博

平成五年八月

## 民間社会教育活動等の振興に関する要望

自民党文教部会 殿  
文教制度調査会 殿

### 一、要 旨

我が国が、二十一世紀に向けて創造的活力のある社会を築いていくためには、生涯学習社会への移行を図ることが極めて重要であります。生涯学習推進のための基盤整備に当たって、生涯の各時期において、多様な学習機会を提供する社会教育の果たす役割は極めて重要であり、そのためには、民間の活力を活かした社会教育活動の振興、指導者の養成・確保、社会教育施設の整備及び学習機会の充実など各般にわたり、総合的な整備を図ることが肝要であります。つきましては、次の事項について、格別の御高配を賜りますようお願い申し上げます。

### 二、要望事項

- (一) 民間社会教育活動振興費補助金の充実
- (二) 民間社会教育関係団体に対する補助
- (三) 社会教育指導体制の整備(派遣社会教育主事事業制度の堅持等)
- (四) 社会教育施設等の整備充実(生涯学習推進センター、公民館、図書館、博物館等)生涯学習推進のための施策としての社会教育事業の実施に必要な経費の拡充(人々の多様な学習機会等の整備)

## 新刊案内

# 生涯学習と地域ルネサンス

瀬沼克彰 著 定価2,500円(税込) 送料310円

生涯学習の目的とするところの一つの視点として、個人と地域社会という構図、相関関係を重視してきた。一方地域から、その土地ならではの文化が生まれ、育ち発展する。わが国の経済優先、効率主義に対するマイナス面を是正する一つの方策として生涯学習が台頭し、現在、全国各地に伝播し、さまざまな動きが起こっている。今日の地域づくりを、あるもの、素材を発掘し、磨きをかけて新しいものに再生していく意味で「地域ルネサンス」と呼ぶことにした。本書は、生涯学習の舞台づくりを念頭に置き地域の再生「ルネサンス」の方策を提示したいというのが主なねらいである。

(はしがきより)

発行 (財)全日本社会教育連合会 〒100東京都千代田区霞が関3-2-3 (国立教育会館内) ☎03-3580-0608